

第90回野尻湖灯ろう流し

花火大会



7月27日(土)

◎灯ろう点火 18:30 ~
◎花火打上(予定) 19:30 ~

野尻湖灯ろう流し花火大会実行委員会(信濃町観光案内所内)
☎(255)3226 <http://www.shinano-machi.com/>

花火 2000 発/特大スターメイン復活/雨天決行
弁天島大鳥居ライトアップ/魚のつかみ取り/他イベント多数
★当日は黒姫駅・道の駅しなのから無料シャトルバスを運行
【お願い】たくさん花火を打ち上げ、花火大会を盛り上げられるよう、ご寄付を募集しています。また、大会をお手伝いいただくボランティアを募集しています。皆様のご協力をお願いします。

東京音楽大学が奏でる

「癒しの森オーケストラ」特別公演

今秋9月8日(日)に開催される東京音楽大学「第3回癒しの森コンサート」に先立ち、特別公演が行われます。たくさんの方のご来場をお待ちしております。

第90回野尻湖灯ろう流し花火大会プログラム

7/27(土) **A** ■開演:14:30
■会場:野尻湖ラインプラザ
B. スメタナ:連作交響詩「我が祖国」より「モルダウ」
A. ドヴォルザーク:交響曲第9番「新世界」
L. アンダーソン:忘れられた夢
合唱:ありがとう(いきものがたり)

7/28(日) **B** ■開場:10:30/開演:11:00
■会場:野尻湖支館3階講堂
C ■開場:13:30/開演:14:00
■会場:旧富士里小学校体育館
■上履き・ゴミ袋を持参ください
A. ボロディン:歌劇「イーゴリ公」より「ダクタン人の踊り」
L. v. ベートヴェン:ロマンス第2番へ長調
原島篤史:共鳴する森
A. ドヴォルザーク:交響曲第9番「新世界」
L. アンダーソン:忘れられた夢
合唱:ありがとう(いきものがたり)

園産業観光課 癒しの森・企業誘致係 ☎(255) 5925

「サントオルソラ協同組合は、ベリー類の生産協同組合です。渓谷地帯で作物の栽培が難しい地域のため、小規模経営でベリー類を栽培。小規模農家約1,200戸で、年間約60億円の生産をしています。私たちの使命はメンバーの生産物の価値を高めること。そのために一番重要な点は、品質の生産をすることです。グローバル市場で、大量生産の外国産には、量や価格では勝てません。高い鮮度と品質を目指して、品種・栽培・流通などの徹底した技術統一と、研究開発部門を持ち、経験を元に改善、改革をしています。また、地域を維持するため、経済面と環境面の2点が重要。経済面では、メンバーに労働に見合う報酬を支払うことで、山間地でも都会への人材流出を防ぐことができ、地域においてベリー産業は非常に重要な役割を担っています。」

北イタリア、トレント市
ベリー専門協同組合「サントオルソラ」
サラ・ベリニ博士



2日目の産地見学、町内の「伊藤ブルーベリー農園」



パネルディスカッションの様子



多くの関係者のご参加をいただきました



ブルーベリーの花

全国産地シンポジウム 2013 ブルーベリー in 信州・信濃町

鍵は「徹底した地域一体化」

日本と同様の中山間地の小規模農家による生産方式で成功しているのが北イタリアのバルスガーナ渓谷のベリー産地です。小規模農家がベリー専門協同組合「サントオルソラ」に集結し、地域一帯での取組の成果が注目されています。

5月31日、6月1日、日本ブルーベリー協会と2013ブルーベリー産地シンポジウム in 信州・信濃町実行委員会主催の「2013ブルーベリー in 信州・信濃町」を開催しました。世界の先進地である北イタリアのトレント市のベリー専門協同組合「サントオルソラ」からサラ・ベリニ博士をお招きし、1日目は総合体育館で基調講演、パネルディスカッションを行い、2日目は産地見学などを通して、ブルーベリー振興について考えました。「美味しいブルーベリーで地域おこし」をテーマに開かれたシンポジウムには、全国のブルーベリー栽培者をはじめ、関係機関・団体など約500人が参加しました。

基調講演では、北イタリアのサントオルソラ協同組合のサラ・ベリニ博士が、「北イタリア・バルスガーナ渓谷サントオルソラ協同組合のベリー類による地域振興」と題して講演をいただきました。サラ・ベリニ博士には、小規模農家による生産協同組合の成功事例を紹介いただき、地域で目指すひとつの理想像を示しました。

パネルディスカッションでは、ブルーベリー産業の確立による地域おこしについて考え、町内の栽培農家と町内外の加工業者、関係機関のパネリスト7名による討議が行われました。

2日目は、産地見学として町内の「伊藤ブルーベリー農園」、「KAWASUNブルーベリー園」、町外の「中野市涌井平山園地」の計3カ所の園地を見学し、それぞれの園地で取組状況の紹介がありました。

様々な視点から識者のお話があり、参加いただいた町内外の栽培者をはじめ、多くの方々にとって有意義なシンポジウムになりました。